

オリンピック聖火リレー 今昔物語



東京 1964 オリンピックから 56 年。東京 2020 オリンピック・パラリンピックが 7 月 24 日に開幕します。オープニングを飾る聖火リレーは、3 月に福島県をスタート。熊本県では、5 月 6 日・7 日の 2 日間、それぞれの思いを胸に秘めた聖火ランナーたちが 13 市町村を駆け抜けます。今号ではその聖火リレーの今と昔を紹介します。

写真：三村勲さん提供

聖火リレーってな〜に？

聖火リレーとは、ギリシャ国内と開催国内で行うリレーによって聖火を開会式が行われるメインスタジアムまで運び、つなげるものです。オリンピックのシンボルである聖火は、開催国全体にオリンピックを広め、関心と期待を呼び起こす役目を持っています。今回は、121日間（移動日を含む）をかけて日本全国を巡ります。

聖火リレーの始まりは、ベルリン1936オリンピック競技大会。スポーツ歴史学者で組織委員会事務総長のカール・ディームの発案でした。その後もオリンピックのシンボルとして続いています。



聖火なんでもトリビア

古代オリンピック発祥の地ギリシャで採火された聖火は、特別機で日本に空輸されました。過去の大会では航空機以外に、船、馬、電子パルスなどの方法で開催地へ送られたそうです。

トーチ今昔物語

前回のオリンピックトーチってどんなものだったの？

◀ 1964年のオリンピックトーチ
雨でも火が消えない仕組みを搭載した鉄製のトーチ。シンプルに見えて、持ち手部分には「TOKYO」の刻印が。



三村勲さん提供

2020年のオリンピックトーチはこれ！

◀ 2020年のオリンピックトーチ
桜の花をモチーフに、色合いも桜ゴールドで日本らしさを込めたデザイン。炎が広がるように作られている。



Photo by Tokyo 2020

in 熊本 聖火リレールート



思いを託す
聖火ランナー

東京1964オリンピックの
聖火ランナーにインタビュー

成功が一番の願い

「2020年東京オリンピックが成功することが一番の願いです」そう話すのは前回の東京1964オリンピックの聖火ランナーの正走者の一人として力走した三村^{いさお}勲さん。前回の聖火ランナーは公募制ではなく、自治体の選出によるもので、バスケットボール部でインター

ハイや国体に出場した当時高校2年生の三村さんが、大江白川中校区からの推薦により選出されました。

名誉とプレッシャー

走る際には顔の向きやトーチを持つ腕の角度が規則で決められており「部活の練習の後、夜中に文鎮をトーチ代わりに持って練習しました」と当時を振り返りました。

本番当日、今でも鮮明に覚えているのは人の多さ。沿道に小さい子どもから高齢者まで多くの観衆が集まる中、産業道路の白川中々子飼橋、浄

行寺、藤崎宮の1.8キロの間を走り、次の走者に聖火をつなぎました。「聖火ランナーは名誉なことですが、聖火が引き継ぐ前に消えたら大変という思いもありました」と三村さんは話します。

思いの火を託す

55年の時を超えてもなお聖火ランナーに対する思いの火が消えない三村さん。「今回の聖火リレーは、前回ほど厳しい規制はないと思うので自由に楽しく聖火を引き継いでほしいです」とランナーに思いを託しました。



聖火を持って走る三村さん

写真：三村さん提供



三村^{いさお}勲さん
(熊本市)

1964



宮田^{たつべい}鉄平さん
(南阿蘇村)

当選の連絡があったときは、とても驚きました。走る区間は地元であり、熊本地震からの復興が進む南阿蘇の立野地区を希望しています。陸上部で鍛えた足で精一杯走り、家族や友達、被害を受けた人たちに笑顔届けたいです。

今回選ばれた聖火ランナー



岩崎^{ひろし}博さん
(八代市)

娘が応募してくれて走るようになりました。高2の時、東京パラリンピックに出場したときの話を覚えていてくれたんだと思います。日本で2度目のオリンピック。観戦も楽しみです。まずは聖火リレーを笑顔で走りたいです。

2020



県国際スポーツ大会推進課
平松^{ひろなほ}さん

二次元コードから最新情報をゲット!

東京2020組織委員会
公式ウェブサイト



新型コロナウイルス感染症の影響により聖火リレーとイベントの内容が変更される場合があります。最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。

要チェック情報



セレブレーション in 八代市

日時 5月6日(水)

会場 やつしろハーモニーホール
多目的広場



セレブレーション in 熊本市

日時 5月7日(木)

会場 熊本城二の丸駐車場